

論語教室だより

『寺子屋・こども論語塾』世話人会
第 30 号
2013 (平成25) 年8月17日 (土)

たの ろん ご じゅく 楽しい論語塾

千歳市立高台小学校4年 街道 花

私が論語塾に通うきっかけとなったのは、子どもの声発表会の出場でした。

お父さんが新聞記事を見つけて勝手に申し込んでいたので、この事を聞いたときには本当にびっくりしました。私はこの時まだ幼稚園の年中だったので、はずかしい気持ちもありましたが、うれしかったです。今思うと、新田先生に出会うことができたので良かったです。初めて新田先生にお会いした時、「やさしそうなニコニコ顔の人だな」と思った事をうっすらと覚えています。

論語塾に通うことを決めてはじめて行ったとき、場所がお寺だったので少しびっくりしました。なぜなら、私はふつうの塾みたいな教室だと思っていたからです。しかも、「ざぜん」ていったい何？とおどろきました。論語の章句はむずかしいし、意味がわからない漢字がたくさんあったので、ハテナ？マークがいっぱいでした。

心にのこっている章句は、新田先生が言う「己の欲せざるところは、人にほどこすことなかれ」です。私はこの章句の意味をふだんの生活に取り入れていきたいと思います。私は人によくちょっかいを出してしまうので、これを直したいです。

教室では、ざぜんもさせてもらっていますが、私はこのざぜんのおかげで、正しいしせいがだんだん身についていると思います。学校でも、しせいが良いとほめられるようになりました。

私はひとりで論語を勉強するのはとてもむずかしいと思います。新田先生や友達や仲間がいてこそ、いっしょにやったり、きそったり、考えをくらべる事ができると思います。なので、こんなにたくさん友達や仲間がいて私はとてもうれしいです。これからも、寺子屋でみんなと一緒に論語を勉強して、孔子先生の事をもっと知りたいです。そして学んだ事を大切に、頑張っってこれからの生活に生かしていきたいと思います。

※ 来月は、道端 啓介君をお願いします。

【ちょっといい話コーナー】

塾生で札幌市立八軒小学校2年の中島 千諒君は、今日、8月17日が誕生日です。千諒君はサッカーなど、外でおもいっきり遊ぶことが大好きな、礼儀正しい思いやりのある男の子です。

あく い あく しょく 悪衣 悪食

寺子屋・こども論語塾 主宰 新田 修

最初の悪衣悪食という四字熟語は、里仁第四・第九章に出てくる「子曰わく、士、道に志して、悪衣悪食を恥ずる者は、未だ與に議るに足らざるなり。」からとったものであることは、すでに学びましたよね。

「孔子先生がおっしゃいました。ひとつの道を志す者が、粗末な衣服や質素な食事を恥ずかしく思うようでは、まだ共に語り合うレベルではないね」という意味でした。つまり、こんな安物着れないよ。こんな

おいしくない物食べれないよ。などと日常生活で勝手気ままなことを言うような人とは、話もする気になれないよ。と言っているのです。日本の諺に「粗衣粗食」という表現がありますが同じ意味であること

も覚えたはず。先生はみんなに、ボロボロの服を着なさいとか、まずい物でも我慢して食べなさいと言っているのではないのです。ここで言いたいのは、わがまま勝手なことを言ってお父さん、お母さんを悲

しませるようなことをしてはいけないよ、ということなのです。時には我慢することも大切なのです。もう一度、その時の講義のプリントを出して、自分に問いかけてみてください。